

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 NPO 法人宇都宮市国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

協会事業「ふれあい日本語教室」から発展した文部科学省宇都宮市地域限定「帰国外国人児童生徒受入促進事業」等の日本語ボランティア・サポーターとして活動する人材の実践的研修の場を提供する。

2 企画委員会の開催について

【概要】

| 開催日時 | 開催場所 | 出席者 | 議題 | 会議の概要 |
|---------------------------|--------------------|--|---|---|
| 10月6日 17:00～ 20:00 | 国際交流 プラザ 懇話室 | 宇賀神俊彦 金子正子 臼井佳子 石川アンナ 櫻井宏美 | 1、研修内容方法の確認 2、研修スケジュール立案 3、外部講師の依頼内容検討 4、募集記事の検討 5、案内状内容の検討 | 1、文化庁提出業務計画書に沿い計画書作成 2、外部講師候補挙げ 3、実習単位を検討 4、補助、コーディネーターの決定 5、案内状発送、配布 |
| 11月16日 17:00～ 20:00 | 国際交流 プラザ 懇話室 | 宇賀神俊彦 金子正子 臼井佳子 石川アンナ 櫻井宏美 神山英子 姜燕 | 1、研修スケジュール確認 2、外部講師依頼 3、企画委員業務分担 | 1、外部講師決定 2、実習の調整 3、会場の確保 |
| 12月17日 17:00～ 20:00 | 国際交流 プラザ 懇話室 | 宇賀神俊彦 金子正子 臼井佳子 櫻井宏美 神山英子 | 1、研修スケジュール最終調整 2、内部補助調整 3、各研修項目の議題検討 | 1、3月14日の研修は午前から午後に変更。 2、検証、実習の調整 |

| | | | | |
|--------------------------|--------------------|--|---|-------------------------|
| | | 姜燕 高橋恵子 志村香苗 | | |
| 1月15日 17:00～ 20:00 | 国際交流 プラザ 懇話室 | 宇賀神俊彦 金子正子 臼井佳子 櫻井宏美 神山英子 志村香苗 | 1、研修参加者増減確認 2、2月以降の研修内容の見直し 3、経費予算の修正確認 | 1、2月以降の研修補助、コーディネーターの決定 |
| 3月31日 17:00～ 20:00 | 国際交流 プラザ 懇話室 | 宇賀神俊彦 金子正子 臼井佳子 石川アンナ 櫻井宏美 神山英子 姜燕 高橋恵子 志村香苗 | 1、研修内容報告 2、反省点のまとめ 3、アンケート結果報告 | 1、今後研修の改善法 2、決算報告 |

【写真】





3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 支援ボランティア能力向上研修
- (2) 研修の目標 外国人児童生徒へ対する支援ボランティアのスキルアップ
- (3) 受講者の総数 38人
- (4) 開催時間数(回数) 64.5時間(17回)
- (5) 参加対象者の要件
 - ①国際交流協会日本語3教室支援ボランティア
 - ②日本語教え方教室受講者
 - ③近隣市町日本語ボランティア支援活動者
 - ④小中学校派遣日本語支援ボランティア
- (6) 受講者の募集方法
 - ①交流協会機関紙「情報スクランブル」(正式報告時添付)
 - ②交流協会日本語委員会案内書郵送
 - ③日本語教え方教室受講者手渡し
 - ④近隣市国際交流協会案内書郵送
 - ⑤前回研修参加者非協会委員宛郵送
- (7) 研修会場
 - ア 講義 宇都宮市教育センター、宇都宮市国際交流プラザ
 - イ 実習 宇都宮市国際交流プラザ
- (7) 使用した教材・リソース
オリジナルプリント、『日本語学級①』凡人者、『かんじだいすき』AJALT
- (9) 講座内容

| 日時 | 講座名／学習内容 | 講師 | 受講者数 |
|---|---|--|------|
| 1月18日 15:00～ 17:00 | ボランティア支援の現状と児童生徒の 状況把握 日本語指導者の意見交換 | 宇都宮市国際交流協会 理事長 臼井佳子 | 22人 |
| 1月23日 13:00～ 15:00 | 学校日本語指導室担当者の意見と 課題抽出 | 宇都宮市立清原東小学校 教諭 黒須陽子 | 24人 |
| 1月29日 13:00～ 15:30 | 日本語指導学級担当者等ボランティア の意見交換(事例) | 宇都宮市日本語指導員 中島里美、石和スワンニ ー、 姜燕、神山英子 | 16人 |
| 2月6日 13:00～ 15:00 | ふれあい日本語教室の実例発表 他県視察結果報告 | 宇都宮市国際交流協会日 本語委員会委員長 村田 孝 | 18人 |
| 2月13日 10:00～ 12:00 13:00～ 15:30 | 背景と子どもたちを取り巻く状況 子どもの第二言語習得 実践例の紹介 | 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 | 23人 |
| 2月20日 10:00～ 12:00 13:00～ 15:30 | 生活言語能力(BICS)の支援(1) (聞く、話す) 教材の紹介と教え方の実際 (実習の準備) | 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 | 26人 |
| 2月27日 10:00～ 12:00 13:00～ 15:30 | 生活言語能力(BICS)の支援(2) (読む、書く、漢字学習) 教材の紹介と教え方の実際 (実習の準備) | 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 | 25人 |
| 3月6日 10:00～ 12:00 13:00～ 15:30 | 学習言語能力(CALP)の支援(1) (トピック中心) 教材の紹介と教え方の実際 (実習の準備) | 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 | 25人 |

| | | | |
|---|---|--|-----|
| 3月13日 10:00～ 12:00 13:00～ 15:30 | 学習言語能力(CALP)の支援(2) (教科中心) 教材の紹介と教え方の実際 (実習の準備) | 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 | 21人 |
| 3月14日 9:00～ 12:00 | モデルとなる活動を行っている団体・活動家の講話、意見交換 | NPO 法人大泉国際教育技術センター 理事長 | 8人 |
| 3月20日 10:00～ 12:00 13:00～ 15:30 | カウンセリングの基礎と境界線 (カウンセリング・マインド) | 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 | 21人 |
| 3月25日 10:00～ 12:00 13:00～ 15:00 | ふれあい日本語教室などの実習 検証 | 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 宇都宮市国際交流協会日本語委員会 委員長 山口由紀子 | 11人 |
| 3月26日 10:00～ 12:00 13:00～ 15:00 | ふれあい日本語教室などの実習 検証 | 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 宇都宮市国際交流協会日本語委員会 委員長 山口由紀子 | 7人 |
| 3月27日 10:00～ 12:00 13:00～ 15:00 | 実習に向けての最終準備 | 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 | 19人 |
| 3月29日 | ふれあい日本語教室などの実習 | 宇都宮市国際交流 | |

| | | | |
|---|--|--|-----|
| 10:00～ 12:00 13:00～ 15:00 | 検証 | 協会日本語委員会 委員長 村田孝 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 | 9人 |
| 3月30日 10:00～ 12:00 13:00～ 15:00 | ふれあい日本語教室などの実習 検証 | 宇都宮市国際交流 協会日本語委員会 委員長 村田孝 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 | 9人 |
| 3月31日 10:00～ 12:00 13:00～ 15:00 | ふれあい日本語教室などの実習 実習から学んだことの分かち合いと問 題点の共有 まとめ、アンケート、結果発表 | 宇都宮大学 非常勤講師 金子正子 宇都宮市国際交流 協会理事長 臼井佳子 宇都宮市国際交流 協会日本語委員 神山英子 | 24人 |

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

研修の最終日にアンケートを実施。

研修内容についてはほぼ全員がとても勉強になり、面白かったと回答。

やはりほぼ全員が今後も児童生徒への日本語支援を継続または新たに始めたいと回答。

個々の感想では、大人への支援と子どもへの支援の違いが印象に残った、教材の作成方法が勉強になったとの回答が目立った。

② 実施主体からの研修内容結果評価

アンケートや受講生からの声として今回の講座が実習も含め、内容も充実し、即戦

力につながる有意義な講座であったことがうかがえた。また、継続的な研修の必要性、外国人児童生徒の支援の重要性を改めて感じた。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

ふれあい日本語教室の規模拡大

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

宇都宮市東部にある清原工業団地をサポートする清原地区のボランティア団体、宇都宮市教育委員会との連携を図り、外国人児童生徒へのさらなる支援に具体性を持たせた。

② 研修後の人材活用

- 1) 上記(10)③記載 a)土曜午後・月曜夜新設日本語教室 b)夏休み児童生徒特別日本語教室 c)小中学校出前教室増設校に対するボランティア支援者として新規活用
- 2) ベテラン支援者の協会内小規模研修会内部講師として活用
- 3) 他事業との連携に伴う実行企画委員として活用

(12) 今後の課題

受講生への今後の継続的なサポートを実施するための体制作りが課題である。